

C-1 わが国の家庭教育の史的研究所(第3報)～北条早雲の家庭教育論～
和泉短大 坂田澄

目的 子供は家庭に生まれ、そして家庭を生活の中心の場として成長する。それゆえに、家庭を場として営まれる家庭教育は、すべての教育の基礎になる最も大切な教育があるといえる。本研究では、このような重要性を持つてゐる家庭教育について、そのあり方を考えるために、わが国における家庭教育の史的研究所を行なつたのである。今回は戦国時代の武將、北条早雲の家庭教育論を考察することにした。

方法 本研究では、とくに北条早雲の家庭教育論を分析するうえで重要と考えられる戦国書法の一つである、北条早雲二十一箇条や彼の武士としての思想に関する資料を中心に考察をした。

結果 北条早雲の家庭教育論は戦国時代の武士としての道を基礎として構築されている。とくに主君に対しては子態度や作法、左に文、右に武の車の両輪をそなえる文武についてのがけの大切さを強調している。しかし、戦代の民生活や社会における家庭教育の中で強調されている正直、孝直などの人徳や規則正しい生活の実践などは、北条早雲の家庭教育論の中に含まれていないので、この点は高く評価することはできない。前代代的な家庭教育論ではあるが、家庭教育の目的を明確にしている点は注目することが出来る。